

講師

樋口恵子さん



NPO法人「高齢社会をよくする女性の会」理事長

プロフィール

東京大学文学部美学美術史学科卒業・東京大学新聞研究所本科修了後、時事通信社・学習研究社・キャノン株式会社を経て、評論活動に入る。内閣府男女共同参画会議議員、厚生労働省社会保障審議会委員、社会保障国民会議委員、などを歴任。現在、東京家政大学名誉教授・同大学女性未来研究所長・「高齢社会NGO連携協議会」代表(複数代表制)。消費者庁参与。

著書に「大介護時代を生きる」(中央法規)「おひとりシニアのよろず人生相談」(主婦の友社)「人生100年時代への船出」(ミネルヴァ書房)など多数。

平成26年8月30日(土) NPO法人「高齢社会をよくする女性の会」理事長樋口恵子さんをお迎えして、男女共同参画公開講座を開催しました。

豊かなご経験に基づいたお話を、ユーモアを交えながらお話しくださり、参加者の皆さんそれぞれが「男女共同参画」や「高齢社会」について改めて考える機会になりました。

たくさんのお申し込みをいただき、当日はおよそ250名の方が参加されました。



# 人生100年時代への船出 〜無縁社会から有援社会へ〜

## 講演会の内容の一部をご紹介します

日本の社会が大きく変化したことを、データを基にお話しいただきました。  
日本女性の平均寿命は 87 歳で世界トップ。男性も今年 80 歳を超え、日本は世界一の長寿国となりました。高齢化率も 25% を超え、日本は高齢社会のトップバッターといえます。

今の高齢者は急激な社会の変化に、お手本のない社会を生きていかなければならないと語られました。

続いて、世界に例のない速さで高齢化が進んだ日本では、家族のかたちが大きく変化してきたことをお話されました。象徴的な言葉として「ファミレス」をご紹介いただきました。

本来、「ファミレス」とはファミリーレストランを略した言葉。でも樋口さんは違う意味で使われています。「ファミリーレス (family + less)」つまり家族がより少ない「ファミレス時代」に日本の社会はなつたと語られました。



さらにこのように続けられました。

「“ファミレス”であれば、ファミリーをつくればいい。  
親族とは違う地域のつながりを作っていけばいい」とお  
っしゃいました。そうすることで「誰ひとり、おきざりにし  
ない未来をめざそう」と訴えられました。

最後に「未来や次世代のことを考えない高齢者は  
“古い甲斐”がない。高齢者こそ未来のことを考えて  
生きよう」と締めくくられました。





コムズサポーターの男性1名とインターンシップ生3名にスタッフとして参加してもらいました！



## アンケートより

●女性の目から見た社会の在り方を  
教えていただいた (60代・男性)

●80歳を前に今後の自分の生き方  
についてふと考えさせられた

(70代以上・女性)

●自分が感じていることを数字の  
上でも示していただき、納得でき  
る内容を教えていただいた

(60代・女性)

●勇気をいただいた

(60代・女性)